

県営吉島住宅（仮称）4期建築その他工事に伴う
実施設計業務の設計者選定結果について

1 選定結果

県営吉島住宅（仮称）4期建築その他工事に伴う実施設計業務の設計者選定について、公募型プロポーザルを実施した結果、次のとおり、設計者の候補者として、特定者と次点者を特定しました。

特定者	株式会社 あい設計
次点者	株式会社 感性舎

2 審査経過等

(1) 設計者選定審査委員会

専門知識を有する学識経験者、実務経験者、施設主管課及び行政職員等で構成する「県営吉島住宅（仮称）4期建築その他工事に伴う設計者選定審査委員会」（以下、「設計者選定委員会」という）を設置し、技術提案書の特定等に係る審査を行いました。

[設計者選定委員会委員（順不同・敬称略）]

委員区分	氏名	役職等	審査の視点
委員長	平野 吉信	広島大学大学院 教授	建築計画
委員	村重 保則	公益社団法人日本建築家協会 中国支部直前支部長	建築デザイン
委員	錦織 亮雄	公益社団法人広島県建築士会 会長	建築設計
委員	島村 隆義	国土交通省中国地方整備局営繕部 整備課長	営繕行政
委員	新上 敏彦	広島市都市整備局 都市計画担当部長	まちづくり
委員	河原 直己	広島県土木局 建築技術部長	建築行政
委員	宮崎 昌二	広島県土木局 住宅課長	施設主管課

(2) 審査概要

ア 技術提案書の提出者の選定（一次審査）

8者から提出された参加表明書を審査し、参加資格等の確認と共に、技術提案書の提出者を7者（後日辞退した1者を含む）、選定しました。

イ 技術提案書の特定（二次審査）

6者から提出された技術提案書を審査し、技術提案書の特定（特定者1者及び次点者1者）を行いました。

[審査経過]

平成25年12月9日	第1回設計者選定委員会	・審査基準の策定
平成25年12月15日	公募型プロポーザルの公告	
平成26年1月8日	参加表明書の提出期限	・提出者8者（内、設計共同体3者）
平成26年1月14日	第2回設計者選定委員会	・技術提案書の提出者の選定7者 ・後日1者が辞退し、6者となる。
平成26年1月15日	技術提案書の提出要請	
平成26年1月30日	技術提案書の提出期限	・提出者6者

平成26年2月18日	第3回設計者選定委員会	・公開ヒアリング ・技術提案書の審査、特定
平成26年3月下旬	設計業務委託契約締結（予定）	

3 技術提案書の講評

(1) 総評

今回のプロポーザルは、老朽化した県営住宅を建替えるための技術提案を求めたものでした。審査にあたっては、業務の理解度及び取組意欲、業務の実施方針、特定テーマに対する技術提案書の審査及び提案者からのヒアリングとともに、提出者・技術者の資格等を考慮した総合的な評価を行いました。

特定テーマの“良好なコミュニティを育むまちなみデザイン”及び“多世代に対応した良好な居住環境”については、与条件との整合性、工学的見地に基づく独創性、コストや施設管理などの観点を踏まえた実現性の視点についての審査とヒアリングを行いました。

全体的に、厳しい制約条件にもかかわらず、各者ともそれぞれの思いを反映した意欲的な技術提案となっていました。

しかし、提案によっては、公営住宅という施設の用途から、維持管理、セキュリティー、プライバシーの確保の観点やコストについて問題があるという意見もありました。

(2) 特定者

特定者の技術提案は、業務の理解度及び取組意欲、業務の実施方針、特定テーマについて高く評価されるとともに、提出者・技術者の実績等についても高い得点を得て、特定されたものです。

特定テーマの「良好なコミュニティを育むまちなみデザイン」に対しては、“地域を「つなげる」コミュニティの結節点”をキーワードとして地域との関係性を創出しようとするもので、周辺住民や居住者の動線を兼ねた軸線を建物に取り込む「通り庭」の計画が特徴的で明快な提案となっています。

また、「多世代に対応した良好な居住環境」については、“世代を「つなげる」くらしの結節点”をキーワードに、住戸配置や共用部分の計画に工夫がされた提案となっていました。

ただし、「通り庭」について、セキュリティーと開放性とのバランスについてどう考えるか、という意見もありました。

総じて、細部にわたって十分に検討がなされていたことから、総合的に高い評価を得たものです。

(3) 次点者

次点者の技術提案は、業務の理解度及び取組意欲、業務の実施方針、特定テーマについて評価されるとともに、提出者・技術者の実績等についても高い得点を得て、次点とされたものです。

公営住宅に対する理解度や住戸計画、業務に対する実施方針に対する精通性が高く評価される提案でした。

特定テーマの「良好なコミュニティを育むまちなみデザイン」の街並みをつくるバルコニーや野菜を育てる実りの広場、「多世代に対応した良好な居住環境」の多彩な関係性を築くコモンスペースとしてのコミュニティの小道については、公営住宅としての実現性について問題があるという意見がありました。